

平成26年7月24日

No. 14-145

株式会社 いよぎん地域経済研究センター

愛媛県内大学生の1ヵ月の収支状況と消費に対する意識 —貯蓄を重視しつつ、“賢く”消費する大学生—

株式会社いよぎん地域経済研究センター（略称 IRC、社長 山崎 正人）では、このたび下記のとおり、県内大学生の収支状況と消費に対する意識について取りまとめましたので、お知らせいたします。なお、詳細は、2014年8月1日発行の「IRC Monthly」2014年8月号に掲載いたします。

記

【調査概要】

大学生の収支状況と消費に対する意識を把握するため、2014年4月に県内大学生（愛媛大学法文学部「地域政策論」、松山大学経営学部「地域産業論」、松山大学経済学部「経済政策論Ⅰ」の受講生318人）を対象にアンケートを実施した。

【調査結果要旨】

1. アンケートによる月間の収入総額の平均は、自宅生が7.1万円、自宅外生が11.7万円であった。しかし、支出の推移をみると、収入が増加しても、貯蓄を除く支出にはほとんど変化がなく、増加分の多くはそのまま貯蓄に回っているようだ。
2. 「毎月貯蓄している」学生は、自宅生が77.4%、自宅外生は61.7%と、どちらも前回調査を上回った。貯蓄する学生の割合は上昇傾向であり、学生の貯蓄志向が高まっていることがうかがえる。
3. 車の保有・利用状況では、「自分専用の車を保有」している学生は全体の5.4%であった。「家族の車を共同で利用」との回答を加えても3割程度と、恒常的に車を利用している学生は比較的少ないようだ。車を持たないのは、経済的な理由が大きいようだが、将来的には車を買いたいと考えている学生は多い。
4. 旅行に関しては、大学生になってからの海外旅行の回数は、約9割が「0回（経験なし）」と答えた。ただ、今後の意向としては、一部に「興味・関心がない」という学生も見られたものの、約7割が海外旅行に行きたいと考えている。
5. 県内大学生の収入総額は過去最高となったものの、支出状況に大きな変化は見られず、貯蓄を重視する傾向がより強まっている。消費に対する意識を見ても、身の丈に合った消費をしているようだ。モノやサービスがあふれ、消費する分野が多様化するなかで、彼らなりに先を見据えた“賢い”消費をしているのではないだろうか。

以上

【アンケートの概要】

時期：2014年4月中旬
 対象：愛媛大学法文学部「地域政策論」、
 松山大学経営学部「地域産業論」、
 松山大学経済学部「経済政策論Ⅰ」の
 受講生
 方法：教室でアンケート用紙を配付し、
 その場で回収。無記名方式。
 回答数：318人

【回答者属性】

| | | | | |
|-----|-------|-------|------|-------|
| 大学 | 愛媛大学 | 45.0% | 松山大学 | 55.0% |
| 性別 | 男性 | 61.5% | 女性 | 38.5% |
| 学年 | 1回生 | 0.6% | 2回生 | 44.7% |
| | 3回生 | 33.3% | 4回生 | 17.9% |
| | その他 | | | 3.5% |
| | | | | |
| 出身地 | 愛媛県内 | 66.4% | 四国3県 | 14.2% |
| | 中国・九州 | 14.5% | 近畿 | 3.8% |
| | 関東 | 0.3% | その他 | 0.9% |
| 住まい | 自宅 | 44.6% | 自宅外 | 55.4% |

(注) 集計は不明分を除く。また、四捨五入して表記しているため、内訳の合計が100%にならないことがある(以下、同じ)。

弊社では、県内大学生の収支状況と消費に対する意識を把握するため、県内大学生を対象にアンケートを実施した。以下はその結果である。

1. 月間の収支状況

(1) 収入状況

月間収入総額の平均は、自宅生が7.1万円、自宅外生が11.7万円で、自宅生、自宅外生ともに2009年の調査開始以来最高となった。

学生全体では親からの援助(小遣い・仕送り等)が減少した一方で、アルバイト収入が大幅に増加した(図表-2)。近年、収入全体に占めるアルバイト収入の割合は大きくなっている。

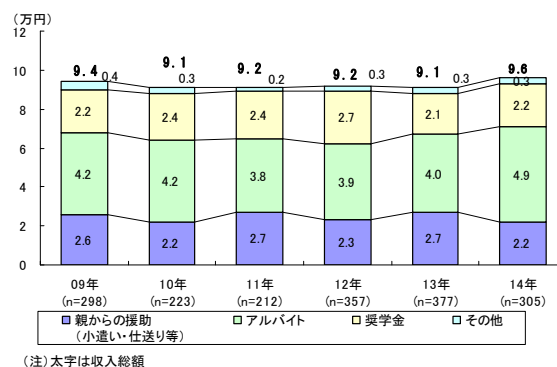
図表-1 毎月の平均収入額 (n=305)

(単位:万円)

| | 全体 | 自宅生 | 自宅外生 |
|----------------------|--------------|--------------|--------------|
| 収入総額 | 9.6 | 7.1 | 11.7 |
| 親からの援助 (小遣い・仕送り等) | 2.2 [4.4] | 0.3 [1.2] | 3.8 [5.3] |
| アルバイト | 4.9 [6.1] | 5.2 [6.1] | 4.7 [6.2] |
| 奨学金 | 2.2 [5.5] | 1.4 [4.7] | 2.8 [5.9] |
| その他 | 0.3 [3.0] | 0.3 [5.2] | 0.3 [2.3] |

(注) 各数字は全回答を平均したもので、[]内は「ゼロ」との回答を除き平均したもの。また、小数点以下第2位を四捨五入して表記しているため、合計と一致しないことがある。

図表-2 収入総額とその内訳の推移



(2) 支出状況

A. 支出の内訳

月間支出総額(貯蓄を除く)の平均は、自宅生が5.1万円、自宅外生が10.2万円となった。その内訳をみると、家賃などの生活費を除けば、自宅生と自宅外生に大きな差は見られなかった(図表-3)。

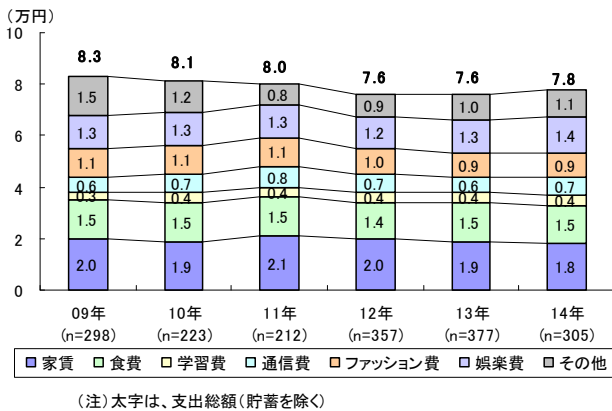
全体の推移をみると、収入が増加しても、貯蓄を除く支出にはほとんど変化がなく、増加分の多くはそのまま貯蓄に回っているようだ(図表-4)。

図表-3 毎月の平均支出額 (n=305)

(単位:万円)

| | 全体 | 自宅生 | 自宅外生 |
|------------|-----|-----|------|
| 支出総額 | 7.8 | 5.1 | 10.2 |
| 家賃 | 1.8 | 0.0 | 3.3 |
| 食費 | 1.5 | 0.8 | 2.2 |
| 学習費(授業料除く) | 0.4 | 0.3 | 0.5 |
| 通信費 | 0.7 | 0.5 | 0.8 |
| ファッション費 | 0.9 | 0.9 | 0.9 |
| 娯楽費 | 1.4 | 1.4 | 1.4 |
| その他 | 1.1 | 1.2 | 1.1 |

図表-4 支出総額とその内訳の推移

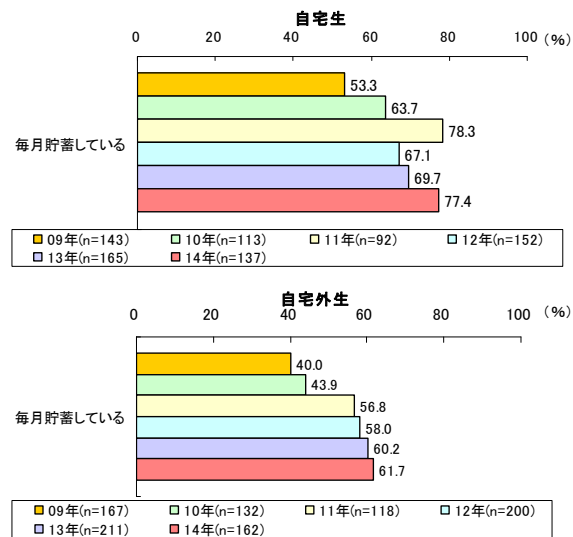


B. 貯蓄する学生の割合と貯蓄額

「毎月貯蓄している」学生は、自宅生が77.4%、自宅外生は61.7%と、どちらも前回調査を上回った。貯蓄する学生の割合は上昇傾向であり、学生の貯蓄志向が高まっていることがうかがえる(図表-5)。

毎月の平均貯蓄額をみると、自宅生2.0万円、自宅外生1.5万円と、2009年の調査開始以来、最も多い金額となった(図表-6)。

図表-5 毎月貯蓄する学生の割合



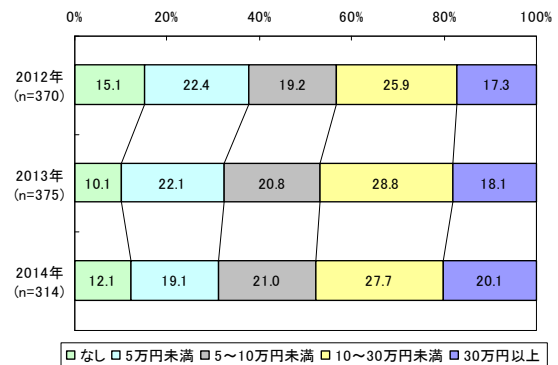
図表-6 毎月の平均貯蓄額 (n=305)

| | 全体 | 自宅生 | 自宅外生 |
|----------|--------------|--------------|--------------|
| 貯蓄額 (万円) | 1.8 [2.5] | 2.0 [2.6] | 1.5 [2.4] |

(注) 各数字は全回答を平均したもので、[]内は「ゼロ」との回答を除き平均したもの

貯蓄残高は、「10~30万円未満」(27.7%)との回答が最も多かった。前回調査と比べると、「なし」の割合が上昇している一方で、「30万円以上」の割合も上昇した。「10万円以上」貯蓄している学生の割合は年々上昇しており、貯蓄残高からも学生の堅実な姿勢がうかがえる(図表-7)。

図表-7 現在の貯蓄残高

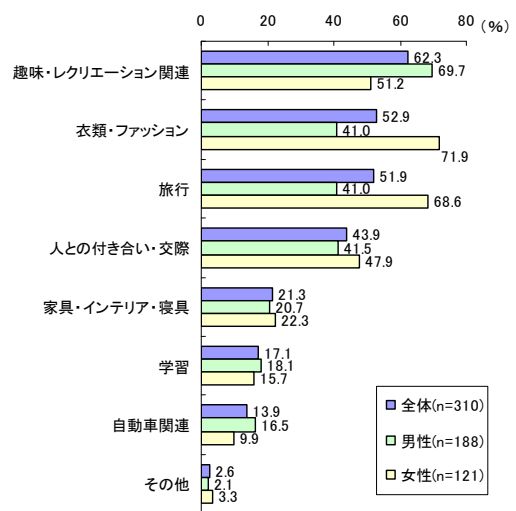


2. 消費に対する意識

(1) 関心のある分野・お金をかけたい分野

現在、関心のある分野を尋ねたところ、「趣味・レクリエーション関連」(62.3%)との回答が最も多く、次いで「衣類・ファッション」(52.9%)、「旅行」(51.9%)となった(図表-8)。

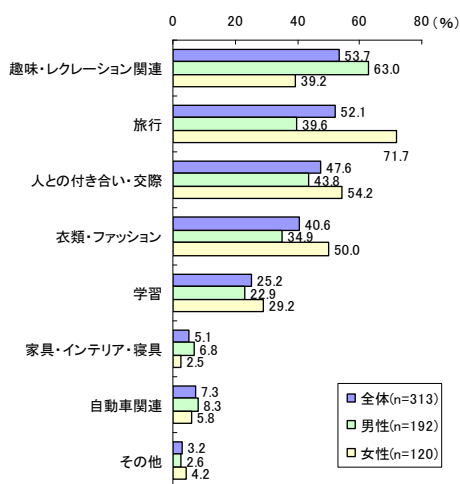
図表-8 関心のある分野(複数回答)



次に、学生の間にお金をかけたい分野を尋ねたところ、関心のある分野と同様に「趣味・レクリエーション」

ン関連」との回答が最も多く、53.7%となった。しかし、関心の高かった「衣類・ファッション」は、お金をかけたい分野での割合はやや低くなった。反対に「学習」は、関心は低くても、学生である以上はお金をかける必要があるためか、割合が高くなっている（図表-9）。

図表-9 学生の間にお金をかけたい分野（複数回答）

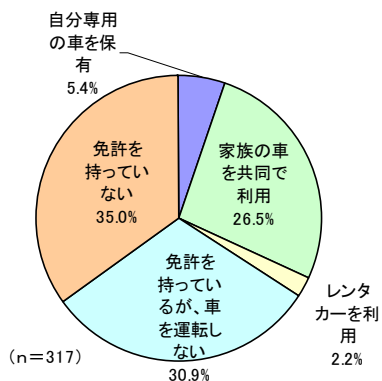


(2) 自動車に対する意識

A. 車の保有・利用状況

車の保有・利用状況を尋ねたところ、「自分専用の車を保有」と答えた学生は、全体の5.4%であった。「家族の車を共同で利用」との回答を加えても全体の約3割と、恒常的に車を利用している学生は比較的少ないようだ（図表-10）。

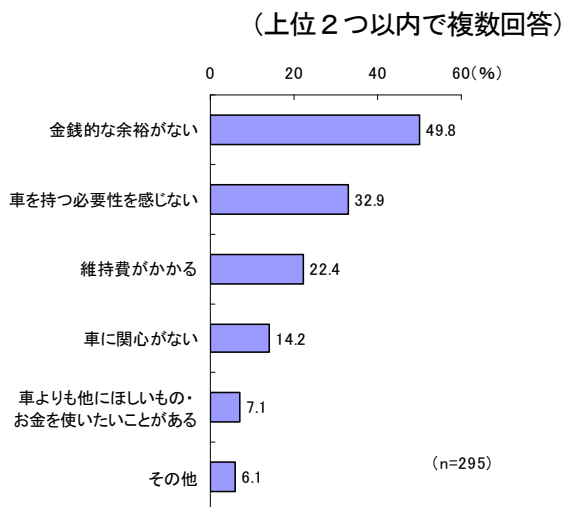
図表-10 車の保有・利用状況



B. 車を持っていない理由

車を持っていない理由として、「金銭的な余裕がない」(49.8%)が最も多く、次いで「車を持つ必要性を感じない」(32.9%)、「維持費がかかる」(22.4%)となった。多くの学生にとって車自体の購入費だけでなく、その後の整備や保険の費用負担など経済的な理由が大きいようだ（図表-11）。ただ、考えようによっては計画性があるとも言えよう。

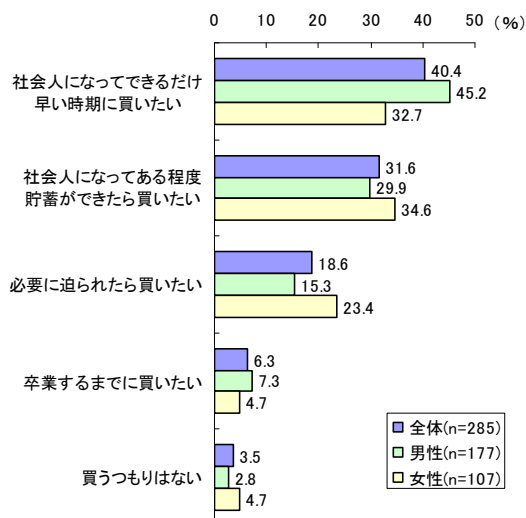
図表-11 車を持っていない理由



C. 車を買おうと思う時期

車を買おうと思う時期に関しては、約4割が「社会人になってできるだけ早い時期に買いたい」と回答しており、特に男性の割合が高くなっている。一方で、「買うつもりはない」との回答は3.5%と、将来的には車を買いたいと考えている学生は多い（図表-12）。

図表-12 車を買おうと思う時期

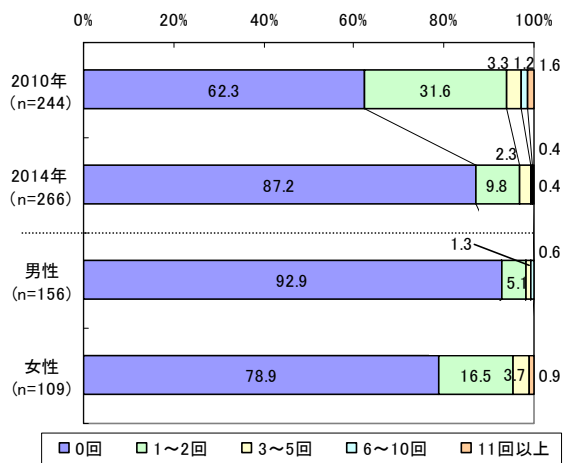


(3) 旅行に対する意識

A. 海外旅行の回数

大学生になってからの海外旅行の回数を尋ねたところ、約9割が「0回」と回答した。男性では、大学生になってからの海外旅行経験がある学生は1割にも満たないという結果となった。また、2010年の調査と比較すると、「0回」との回答が25ポイント近く増えており、海外旅行経験者は大幅に減っている(図表-13)。

図表-13 海外旅行の回数

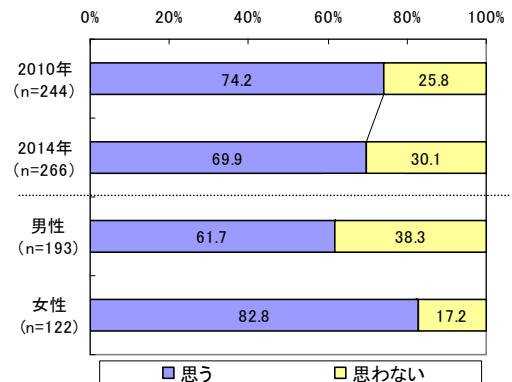


B. 今後の海外旅行の意向と海外旅行をしない理由

ただ、今後の意向としては、約7割が海外旅行に行きたいと思っている。また、2010年と比べると、経験者と同様に、「行きたい」と思う学生の割合も低下している(図表-14)。

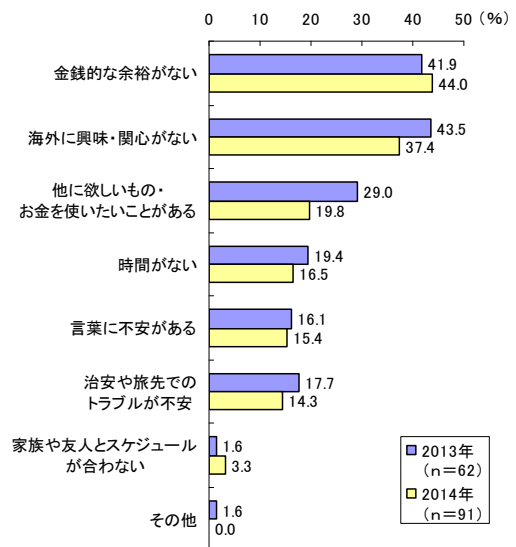
海外に行きたいと思わない学生にその理由を尋ねたところ、最も多かったのは「金銭的な余裕がない」(44.0%)、次いで「海外に関心がない」(37.4%)となり、興味・関心がない学生も見られるが、車と同様に経済的な理由が大きいようだ(図表-15)。

図表-14 学生の間に行きたいと思うか



図表-15 海外に行きたくない理由

(2つ以内で複数回答)



おわりに

県内大学生の収入総額は過去最高になったものの、支出状況に大きな変化は見られず、貯蓄を重視する傾向がより強まっている。

消費に対する意識を見ると、身の丈に合った消費をしているようだ。モノやサービスがあふれ、消費する分野が多様化するなかで、彼らなりに先を見据えた“賢い”消費をしているのではないだろうか。

(國遠 知可)